

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1430
施設名	ChaCha Children Daikanyama
施設所在地	渋谷区恵比寿西2-13-5
法人名	社会福祉法人ChaCha Children & Co.

1. 活動のテーマ

<テーマ>

光

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

自然光やライトテーブル、プロジェクターを通して「見る・感じる・真似る」といった乳児の感覚的な探究が育つことを意図した。光との出会いが、他児や保育者との関係づくりや表現の芽生えにつながるよう環境を構成した。

2. 活動スケジュール

4月：自然光の導入・室内探索

6月：ライトテーブルや間接照明との出会い

10月：素材を通した光の透過や影の観察

3月：ライトテーブルと様々な素材との組み合わせ

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ライトテーブル、アクリルボックス、透過素材（スカーフやセロファン）
- ・短焦点プロジェクターを活用し、光と影の動きを壁面に投影
- ・自然光が差し込むスペースを確保し、探索しやすい場づくり
- ・記録・振り返りにはスマートフォン、タブレット、PCを活用

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ライトテーブルや自然光、プロジェクターを使って、光と影の変化を体験する遊びを展開。透過素材や手の動きによって見える影の動きや色の変化を、繰り返し試す姿を引き出すことを意図した。また、自ら触れて変化させる事ができる環境構成を意識した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

光の中で動く影を見て驚いたように声を上げたり、手で影を追いかける姿があった。保育者や他児の模倣を通して自らも手をかざしたり、「あ」「わぁ」などの声を発しながら関わる様子が見られた。また表情や目線等で保育者に訴えかける姿も多く見られた。光の活動を通じて、模倣・共感・共有といった関係性の育ちが促された。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

感覚的な遊びを通じて、子どもたちは光だけでなく人とのやりとりへの興味も深めていた。光の変化に気づき、自ら試し、それを誰かと共有しようとする姿に、0歳児の豊かな学びと対話の始まりを感じた。主体的に変化を起こす環境構成を意識した事で、様々なものに対して自ら手を伸ばそうとする姿が増えた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1430
施設名	ChaCha Children Daikanyama
施設所在地	渋谷区恵比寿西2-13-5
法人名	社会福祉法人ChaCha Children & Co.

1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など) 草花や野菜、虫や水などの自然に触れ、変化に気付いたり、驚きを感じたりする体験を通して、「伝えたい」「もっとやってみたい」という探究心や人との関わりが深まることを目指して設定した。

2. 活動スケジュール

4月：自然物との出会い（散歩・虫探し） 5月～6月：野菜の水やり・収穫 10月：落ち葉あそび・水たまり遊び 12月：色や形の変化への気付きと言葉のやり取り
--

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具) ・ライトテーブルでの葉や花の観察 ・プロジェクターによる自然の中への没入体験 ・図鑑や写真カードの設置 ・活動記録と共有に記録・振り返りにはスマートフォン、タブレット、PCを活用

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

野菜の栽培や落ち葉・虫との出会いを通じて、自然の特徴や変化を発見する活動を継続的に行った。五感を使った遊びを中心に構成し、自然の中での発見や感触を言葉や仕草で表現する機会を重ねた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「いた!」「ぬれた!」など、発見したことを保育者に伝えようとする声日々増えていった。葉っぱの色や形を比べたり、見つけた虫を友だちに知らせたりするなど、自然物が子どもたちの関わりへの媒介となった。保育者からの問い掛けに対して、考えながら自然物を観察したり触れたりしている姿が見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自然は、子どもたちの気付きと表現の入り口として大きな役割を果たしていた。安心できる環境と信頼関係の中で、発見→共有→再挑戦という探究のサイクルが育っていた。保育者が子どもたちの発見に共感し、共に喜び合う姿勢を持つことで、「またやってみたい」という意欲が自然に育まれていた。素材や場面が変わらなくても、新しい視点で見つめ直す力が日々育っていると実感した。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1430
施設名	ChaCha Children Daikanyama
施設所在地	渋谷区恵比寿西2-13-5
法人名	社会福祉法人ChaCha Children & Co.

1. 活動のテーマ

<テーマ>

地域・社会

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

身近な人・場所・物と出会い、五感での体験を通じて「知っている」「つながっている」と感じられる安心感や誇り、自ら行動しようとする力を育みたいと考えた。

2. 活動スケジュール

4～5月：街散策、コーヒー豆の購入・ミル体験

7月：地域イベント・人との交流

9月：ごっこ遊び（カフェ・お店やさん）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・ライトテーブルでの素材探索・観察
- ・プロジェクターで地域との活動を振り返り
- ・活動記録と共有に記録・振り返りにはスマートフォン、タブレット、PCを活用

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

コーヒー豆を実際にミルで挽くことで、音やにおい、手ごたえなどを体験的に楽しんだ。さらにその体験をきっかけに「おみせやさんごっこ」へとつながり、地域との交流経験を再現しようとする遊びが展開された。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「まわしてみたい」「においするー」といった声とともに、ミルを回す姿に集中する様子があった。「〇〇さん、やって!」と友だちにバトンを渡すようなやりとりも見られた。地域のカフェの人との出会いを再現し、「いらっしゃいませ」とごっこ遊びを展開しながら、実際の経験と遊びが重なっていった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

地域の人や本物の素材との関わりが、子どもたちの思考や表現を豊かにしていた。経験を再現しようとする遊びの中に、2歳児の社会性や想像力、他者との関わり力が育っていることを強く実感した。特に、実際に関わった人とのやり取りや本物の道具に触れた体験が、子どもたちの「やってみたい」「伝えたい」という意欲を引き出し、遊びの中で何度も繰り返されていたことが印象的だった。保育者がその経験に耳を傾け、気持ちに応えようとする関わりが、子どもたちの自己肯定感や探究心をさらに後押ししていた。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1430
施設名	ChaCha Children Daikanyama
施設所在地	渋谷区恵比寿西2-13-5
法人名	社会福祉法人ChaCha Children & Co.

1. 活動のテーマ

<テーマ>

SDGs (CO2・リサイクル・地域とのつながり)

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)

子どもたちの身近にあるゴミや資源のことから「地球にやさしいことって何だろう?」という問いを出発点に、持続可能な社会の在り方を探究する力を育てたいと考えた。

2. 活動スケジュール

4～6月：身の回りをSDGs視点で彩る、コンポスト観察／CO₂の探究

7月：ロスフラワー活用・アップサイクル活動

9月：廃材でのSDGsハンバーガー屋さんプロジェクト

10～11月：SDGs17目標との接続、ChaCha Festivalでの表現遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)

- ・分別ごみ箱、ロスフラワー、廃材素材
- ・コンポスト
- ・プロジェクター
- ・活動記録と共有に記録・振り返りにはスマートフォン、タブレット、PCを活用

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

リサイクルマーク探しやごみ分別の実践、コンポストによる分解観察、ロスフラワーを使った表現活動を通して、資源循環と社会貢献の意味を子どもたちと考える活動を展開した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「これってリサイクルできる?」「バナナの皮、土になってる!」と気付きを共有しながら仲間と分解過程を観察。「みんなに伝えたい!」とChaCha Festivalの準備にも意欲的に関わり、来場者にロスフラワー作品を説明する姿も見られた。保育者は一人ひとりの問いや目的を引き出し、支援しながら活動を支えた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

振り返り

日々の活動と社会課題が子どもたちの中でつながり、行動や表現の動機へと変化していくプロセスが見られた。遊びの中に「誰かのためにやってみたい」という意識が根づく手応えを感じた。活動の中で子どもたちは、リサイクルやCO₂といった一見難しい言葉や概念にも自分なりの視点で向き合い、納得したことを自分の言葉で表現していた。Festivalでは友だちの発表を支える姿も見られ、共同性や社会性も育っていた。日々の暮らしが探究の場になること、そして子どもたちの視点が世界とつながっていることを改めて実感した。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1430
施設名	ChaCha Children Daikanyama
施設所在地	渋谷区恵比寿西2-13-5
法人名	社会福祉法人ChaCha Children & Co.

1. 活動のテーマ

<テーマ>

SDGs（絶滅危惧種・自然とのつながり・共生）

<テーマの設定理由>

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

絶滅危惧種や自然への関心を出発点に「守る」「伝える」「つながる」という視点から、子どもたち自身が社会とつながる経験を意識的に積むことを目的とした。

2. 活動スケジュール

- ・4～5月：ChaChaだんご堂プロジェクト
- ・6月：絶滅危惧種カード、ジオラマ制作、地域のゴミ拾いプロジェクト
- ・10月：ChaCha Festival発表に向けた準備・プラゴミジンベイザメ作成
- ・11月：ChaCha Festivalでの表現遊び

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

- ・ジオラマ素材、廃材、動物図鑑、写真、伊藤園さんから頂いたお茶殻など
- ・プロジェクター
- ・活動記録と共有に記録・振り返りにはスマートフォン、タブレット、PCを活用

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

絶滅危惧種への関心から、海のごみ問題や自然保護について考える活動を展開し、ジオラマ制作や図鑑・写真を使った調査活動を行った。ChaChaだんご堂では“つながり”をテーマに地域交流を体現し、Festivalでは自らの言葉で伝える場を設けた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

「絶滅危惧種を守りたい」「どうすれば伝わる？」と仲間と話し合いながら、役割を分担して準備する姿が見られた。「伝えるって楽しい」「つながるってうれしい」と感じた経験が、自信と誇りに変わっていった。保育者は対話の場をつくり、子どもたちの想いを形にする過程を共に歩んだ。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

自然や他者との“つながり”を実感として受けとめ、それを自らの言葉と行動で表現しようとする姿が印象的だった。子どもたちの探究は、知識の獲得にとどまらず「どう伝えるか」「誰に届けるか」までを含む、本質的な社会参加へとつながっていた。パンダやジンベイザメをはじめとする絶滅危惧種動物を守るために何ができるかを、友だち同士で話し合いながら活動を深めていく姿に、伝える力と協働する力の育ちを感じた。ChaChaだんご堂では、年下の子どもたちや地域の方との関わりを楽しみながら「つながることの大切さ」を実感していた。